

台湾では、新型コロナウイルス対策として講じていた渡航制限をめぐり、昨年9月29日から、日本などの外国人を対象に、査証(ビザ)なしでの訪台を認める措置が再開されました。同10月13日以降は、入境後の隔離といった水際対策も大幅に緩和されています。台湾への自由な入境が可能となり、3年ぶりとなる国際会議や大型スポーツイベントも続々と開催され、人的往来は着実に増えています。

台湾交通部によると、訪台した外国人は、制限を緩和した同9月で6万8千人だったのに対し、同11月には17万3千人になりました。「アフターコロナ」を見据え、かねて台日間で培った経済、文化、教育など各分野での交流が今後、より盛況にな

特別寄稿

台北駐日経済文化代表処横浜分処 張淑玲処長

「卯年」友好関係飛躍の年に

ることが期待されます。

実際、台日間を結ぶ航空路線が相

次いで再開されたほか、就航や増便

もされています。台湾の航空会社2

社は昨年10月から新たに、「台北-

新千歳」線を就航させ、別の1社は

同11月に同路線を再開しました。同

12月に入ると、複数社が「台北-羽

田」線を増便しています。今年1月

には、「台北-高松」線や「台北-

広島」線の運航が再開され、「台北-

新潟」線と「台北-仙台」線の運

航も始まっています。

台湾は、中高校生の海外修学旅行

先として令和元年度まで6年連続で

最も多かった訪問先であることが、

日本修学旅行協会(東京都中央区)

の取りまとめで分かっています。多

くの生徒に再び、受け入れられるこ

とを心待ちにしています。

一方で、コロナ禍においても台湾

と日本の親交は、深化しました。3

年から2年間にわたり、県内では、

台湾友好議員連盟が新たに、計4自

治体(逗子、小田

原、三浦3市議会

と寒川町議会)で

発足しました。こ

れで計9の自治体

と「友好の輪」が

広がったわけです。

半導体受託製造の世界最大手、台

湾積体回路製造(TSMC)は4

年、熊本の新工場建設を開始し、6

年に稼働する予定です。TSMC以

外関連企業は十数社あり、中でも半導体の後工程(封止・検査)分野の世界大手である日月光(ASE)は、日本支社を新横浜に置いてます。海外拠点を日本に置いた同関連企業のうち、ASEを含めた計6社が県内に支店を構えています。

台湾は3年9月、日本など11カ国から成る環太平洋パートナーシップに関する包括的および先進的な協定(TPP11、CPTPP)への加盟を申請しました。太平洋を囲む国々の貿易について、お互いに関税を撤廃するなどし、地域的な自由貿易化を目指す協定であり、締結を重大な目標としています。

外務省や台湾経済部の統計を見るに、人口規模は約5.1億人で、国内総生産(GDP)は約11.2兆ドルと、世界全体の約13%を占めています。加盟国の3年における台湾との貿易総額は約4分の1を占めており、双方間投資は25.31%でした。

このうち、日本、シンガポール、マレーシア、ベトナムは、トップ10に入る台湾の貿易相手国です。将来的には、参加国がさらに増加し、貿易総額と双方間投資の割合が増加することが見込まれます。

加盟することは台湾にとって大きなメリットがあります。米国が離脱したため、CPTPPをリードしている国は日本です。ぜひとも台日間係を念頭に、台湾の加盟に向けた努力添えをいただければと思います。

1月22日に旧暦のお正月を迎えた台湾では、このときをもって正式に今年の干支がウサギに変わりました。「卯は跳ねる」といいます。台湾と日本の友好関係がより飛躍できる年となるよう、切に願います。



張淑玲 台北駐日經濟文化代表處橫濱分處 處長